

不謹慎と批判の声

水俣病パンフレット、各学校に配る

「隠れ水俣病」の発症など水俣病問題が再度大きくクローズアップされているなかで、チッソ株式会社教育現場の小中高校に「水俣病は不測の事態だ」となどチッソの立場をPRするパンフレットを送りつけていることがわか

り、「教育現場を混乱させる。不謹慎だ」という批判の雨が起きている。このパンフレット（二九分）は「水俣病問題について、その経緯と会社の考え方」と題するもので、ことし八月東京本社総務部が

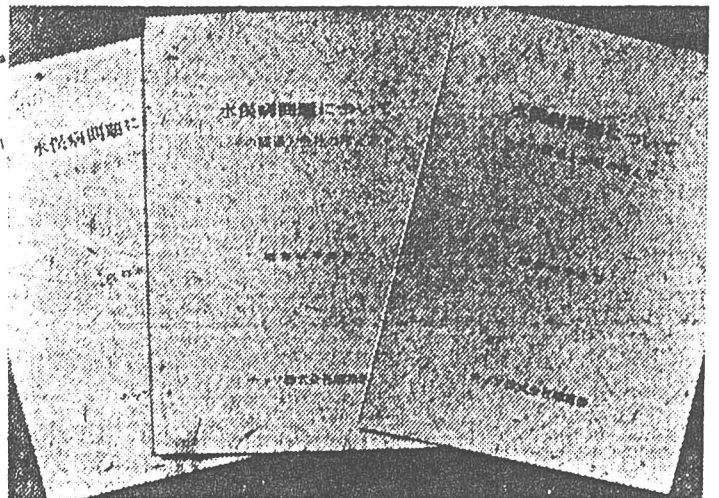
作成、官公庁や報道機関などに配布した。その後、水俣支社では九月末になって熊本県と出水市の小中学校長あてに配ったという。パンフレットの内容は①水俣病は不測の事態②チッソは二回補償をし、年金も払い続けている③救

済は一部の患者の援助である④補償が解決した人々とは円満な関係が続いている⑤現在、水俣工場に水銀を使う設備はない⑥チッソは苦い経験を環境整備に役立てる⑦やり方は良心的とは言えないと述べている。

このパンフレットを送られた各学校では、突然送られてきた短冊文書にとまどった表情。水俣市のある中学校長は「会社側からこの種の文書が来たということになれば、当然市民会議や患者側からの文書攻勢が始まるだろう。そんなれば教育現場が混乱する。会社のやり方は良心的とは言えない」と言っていた。

これについてチッソ水俣支社は「求人などで学校へ行くとお宅は公害がね」と言われるし、かなり悪解されている点があるので、パンフレットを各学校長へ送った。決して教材としてということではない」と言っている。しかし、最近、県下の各学校で公害教育への関心が高まり、県教委にも公害対策委員会が出来ているところから、これらへの対抗策との見方もあり、県教委、高教組では警戒の色を濃くし、配布の実態などを調べたと、必要があれば、地教委や地教連などに対し、配布をやめさせるよう申し入れることになっている。

東平チッソ水俣支社総務部長の話 水俣病問題については、かなり誤り伝えられている面があるの



チッソが小・中・高校に配布したパンフレット

で、会社の考え方を知ってもらうために配布した。学校だけに配つたわけではなく、教材にしてほしいという意図はない。

津島県教組委員長の話 これまでの調査では熊本、水俣などの学校に送られているようだ。水俣病についての反省がなく、自己弁護だけの文書だ。早急に配布の実態を調べ、七日の執行姿で対策を決めるが、こういう一方的な宣伝文書が送られてくることは、教育現場を混乱させるだけだ。